

乳がんについて知ろう、あなたとあなたの大切な人のために

日本では16人に1人がかかるといわれる乳がん。治癒率を高めるには「早期発見」が基本です。今回は欧米に比べて低いマンモグラフィー受診率についてご説明します。



宇都宮セントラルクリニック理事・放射線科医
佐藤俊彦 氏

・セントラルメディカル俱楽部顧問医
・野口記念インターナショナル画像診断クリニック院長
・主な著書
『100歳まで現役で生きる人のシンプルな習慣』(幻冬舎)、
他多数

テーマ ピンクリボンと乳がん健診啓発

米国では1993年10月に「ナショナル・マンモグラフィードーム」が制定されました。国をあげた乳がんの早期発見とその重要性を伝える啓発運動により、アメリカではマンモグラフィー検査が普及し、1990年ごろから死亡率が低下しています。

一方、日本では相変わらずマンモグラフィーの受診率が低く、死亡率も上昇しています。

当院では、低い受診率を改善するため、痛みの少ないマンモグラフィー(トモシンセシス)を導入し、精度の高い検

がんは、子育て世代である40歳代に多く、40歳代で発病した患者さんの50%が5年以内に死亡しています。従つて、ガン孤児の問題も大きな社会問題となりつつあります。

当院では、早期発見で受けよう、マンモグラフィー検査、乳がん活動を広げていこうと思います。



次回は11月20日掲載予定です。



乳がん検診実施中

医療法人DIC 宇都宮セントラルクリニック

宇都宮市屋板町 561-3

☎ 028・657・5215

<http://www.ucc.or.jp>

宇都宮セントラルクリニック

PR